

令和８年度第１回ＪＲ姫新線維持・利用促進ワーキングチーム 議事要旨

日 時 令和８年７月２８日（火）１４：１５～１５：４５

場 所 兵庫県龍野庁舎 第１会議室

出席者 別添出席者名簿のとおり

内 容

〈開会挨拶〉

【岡本委員（西播磨県民局 副局長）】

本日はお忙しい中、今年度１回目となるＪＲ姫新線維持・利用促進ワーキングチーム会議に御出席いただき感謝申し上げます。

兵庫県では、令和４年度にＪＲローカル線維持・利用促進協議会及び県内対象路線ごとのワーキングチームを立ち上げ、利用促進策の検討と展開を進めている。姫新線では、平成２（１９９０）年に、現行の「姫新線利用促進・活性化同盟会」の前身である「姫新線姫路上月駅間電化促進期成同盟会」を設立し、電化に向けた利用促進活動を開始した。電化は実現しなかったものの、新型車両の導入等による高速化が図られて以降も、同盟会による利用促進活動を継続し、姫路上月間の年間乗車人数３００万人を目標として取り組んできた結果、令和７年度は３１２万人となり、目標を３年連続で達成した。

また、本年は姫路駅から新見駅までが結ばれ、「姫新線」と改称されてから９０周年の節目の年に当たる。この機会を契機として、ワーキングチーム及び同盟会を中心に、さらなる利用促進と沿線地域の活性化に向けた取組を推進していきたい。

一方で、沿線地域の人口減少など、地方ローカル線を取り巻く環境は厳しく、播磨新宮から上月間も例外ではない。しかし、鉄道は通勤、通学、通院など地域住民の重要な移動手段であるとともに、周遊性による交流人口の拡大など地域活性化に大きく寄与する存在である。姫路から新見間１５８．１キロの路線全体を意識しながら、播磨新宮から上月間の沿線住民のみならず、来訪者や周遊者を含めた恒常的な利用促進に繋がるよう、意見交換や情報共有、議論を深めていきたい。

本日は、建設的な議論となるよう、皆さまにおかれては忌憚ないご意見をお願い申し上げます。

〈諸報告 1〉

- (1) 令和8年度JRローカル線維持・利用促進協議会の結果について 資料1
【兵庫県交通政策課及びWT事務局より説明】
- (2) JRローカル線維持・利用促進協議会 実施方法の変更について 資料2
【兵庫県交通政策課から説明】
- (3) 姫新線利用促進・活性化の取組について 資料3
【たつの市から説明】

〈情報提供〉

JR姫新線の利用状況について 資料4（非公表）
【埴内委員（JR西日本兵庫支社 課長）】

姫新線の乗車人員の推移について、播磨高岡～播磨新宮間の乗車人員合計は、コロナの影響により一時的に大きく落ち込んだものの、現在は明確な回復傾向が見られる。一方で、千本～上月間の乗車人員合計は、コロナの影響後も、横ばいから微減の傾向で推移している。播磨新宮駅を境として、ご利用状況に大きな差がある。千本～上月間では、JR発足当時と比べてご利用が39%程度まで大きく減少しており、コロナ禍前の2019年度と比べても74%、昨年度と比べても93%と、ご利用は減少傾向が続いている。

姫新線利用促進・活性化同盟会が目標として掲げている年間乗車人員300万人については、千本～上月間のご利用が厳しい状況にある一方で、主に播磨高岡～播磨新宮間のご利用回復に支えられる形で達成している状況と考えられる。

列車本数、人口、およびご利用状況を示す輸送密度の推移を比較すると、人口減少以上のペースで鉄道利用が減少している。輸送密度については、他の線区ではコロナの影響からの回復により増加しているところが多い一方で、播磨新宮～上月間では、輸送密度が2年連続で減少している。

2022年4月に当社からローカル線に関する課題提起を行い、このワーキングチームが始まってから、今年で5年目を迎える。千本～上月間を中心に利用者数の減少傾向が続いている状況を踏まえ、これまで実施してきた利用促進施策の成果や課題について改めて整理し、今後の取組の方向性を皆さまとともに検討していくことが重要である。

また、検討を進めるにあたっては、現在鉄道を利用されている方だけでなく、利用されていない方も含めて、地域における移動の実態やニーズを把握していくことが重要である。そうした実態も踏まえながら、地域の移動手段をどのように維持・利用しやすいものとしていくか、皆さまと引き続き検討したい。

〈意見交換〉

【石井委員（しんぐうNext 会長）】

昨年度からコバコ株式会社と連携して「地域デザインミーティング」という意見交換会を開催し、地域活動をしている高校生をお呼びして、高校生同士の交流会を実施している。明石市や姫路市からの参加者もあり、姫新線を利用して初めて佐用を訪れた方もいた。少人数ではあるものの姫新線の利用促進に一定の効果があったと考えている。今後はこうした取組をさらに広げていきたい。

参加した高校生からは、ICOCA が利用できないことへの意見があった。普段から IC カードを利用している若い世代にとって、本竜野駅から乗車した際に切符を購入しなければならないことに困っていた。サービスとして活用できるようにしていただけると、使う側にとって良いものになると思う。せっかく来訪してもらう以上、高校生にも良い旅行ができたと思ってもらいたい。

また、ホームに待合場所がないことについても利用者から意見が寄せられている。使う側としての心地よさ、利用時のサービスとしてあったらいいな、という声があがっているので代弁させていただく。

【谷口委員（コバコ株式会社 代表取締役）】

佐用駅前においてコワーキング事業を運営している。コロナも終わり事業が回復していることから、佐用駅前への再投資を検討している。

現在、都市部から佐用を訪れた人が地域住民と交流できる機会が少ない。地域と接続できる場として、お試し住宅やゲストハウスなどの長期滞在が可能な施設をつくりたいと考えおり、補助金申請も行っている。

需要が見込める分野については投資が可能である一方、需要が見えにくい分野への投資は難しい状況にある。また、姫新線沿線の駅前エリアは地権関係が複雑で、不動産売買が難しい。オーナーと連絡が取れないなどの複雑な事情があるので、このあたりを役所や皆様と、お時間をいただけるのであればもう少し活性化につなげることが出来るのではないかと思います。

【畑本委員（株式会社緑葉社 代表取締役）】

通勤・通学者は減るのが当たり前という中で、どう需要を創出するかを論点とする他ない。観光需要の掘り起こしも、観光するためのコンテンツがないと意味がないので、行く目的を創るという点において、まちづくり側、フィールドを持っている地域側がどういう面白いコンテンツを調整するか、という話になる。

県施策のフィールドパビリオンの取組は、ソフトコンテンツに振ったツアー醸成の様相が強い。一方、我々は、ディベロッパーとしてハード整備を進め、店舗

が出店しやすい構造をつくることで店舗誘致に成功した。ディベロッパーとしてハコを供給するという機能が、フィールドパビリオンの取組が組み合わさることで効果が最大化されたのではないかな。

佐用駅前で空き家の情報がある。町も一緒に動いていく制度だが、例えば、駅前で空き家活用特区指定をし、空き家情報を集積し、調整区域であれば用途変更できる等、活用可能な状態で利用するとかサブ拠点の供給をすると、佐用に来るという話になる。

これまでWTでの努力は分かるが、もう一段階と考えると、今のようなハード側の仕掛けをしないと厳しいのではないかな。

石井委員のおっしゃられた地域デザインミーティングはすごく良い。そういうのを姫新線の優良事例のラインナップにカウントしてもいいと思う。若者たちと一緒にこの地区をこういう風にしたら面白いよね、ということをどんどん可視化し、具体的なハコの整備をすすめていくことが出来ると面白いと思う。

ここまで固めの立て付けを重ねてきたから、クリエイティブな新たに何かを仕掛けましょう、というのがこういう過程は出てこない。民間の意見をテーブルに乗せて、それをこういう場の枠組みに取り入れていくみたいな流れにすると、面白いのではないかなと思う。

2点共有がある。

1点目は、県都市政策課での取組でエリアマネジメント推進プログラムが令和7年度から走っている。平福は認定申請までは至っていないが、平福からもエリアマネジメント団体に、という動きがある。駅やバス停も含めてどのように地域の導線を作るかということの主たるテーマに据えながらビジョンを定めたうえで、活動をしている。沿線外ではあるが、姫新線に拡大してテーブルに乗せることができるのではないかな。

2点目は、近年、神姫バスとコミュニケーションを図り、姫路市からたつの市へどう送客するか、という議論を交わしている。神姫バスに、龍野地区に物件を取得いただき、ホテルを出店することが決まっている。さらに別の企業も物件を取得、春以降「醸す場かねる」も併せてのオープンを予定している。

神姫バス龍野営業所を改築する予定で、姫路駅前にオープンした MONZEN と龍野をつなげよう、ということで動いている。例えば、姫路駅で大型スーツケースを預け、観光や仕事をしている間に、スーツケースだけをターミナル、あるいは宿に運び、現地側（たつの市側）で荷物を受け取れるという仕組みを検討している。この動きは、国土交通省のモデル事業として選んでいただいている。これは直接的には姫新線に関係がないかもしれないが、広い意味では姫新線の利用促進に寄与する取組になると思う。

【萩委員（代理）（神姫観光幹部株式会社 常務取締役ツーリズム事業部担当）】

コンテンツの造成というのは、核になると考えている。

神姫観光自体は、地元から外に出ていくお客さんが主になっている。我々は外に向かっていくときに、まず自治体の助成金を確認している。どこのエリア、どこの場所で何ヶ所観光施設やコンテンツを利用いただくことを条件に、参加人数に合わせて助成金を受けられる。というような助成制度を活用してお客様に還元している。そういった助成金も必要だと思う。

【飯田委員（佐用町商工会 事務局長）】

家族が姫路の学校に通っている。当初は、最寄りのバス停まで送迎し、そこからバスで通っていた。バスは各駅停車のため、通学時間が非常に長い。今は、播磨新宮駅まで車で行ってそこから姫新線を使っている。居住地によっては、播磨新宮から姫新線を使って姫路に出た方が早い。特に姫路城近辺は混むため、バスだとさらに時間がかかる。播磨新宮駅から姫路までは 30 分、山崎から新宮までは 20 分。バスと姫新線の時間が上手くかみ合えば、早く、楽に姫路に着ける。

定期代もそちらの方が安いだろう。沿線外から使ってもらおうということも考えられないか。

【杉本委員（たつの市企画財政部企画政策課 課長）】

たつの市では千本駅、佐用町では上月駅、ここで切り取られ乗車密度が低いと言われるのは少し抵抗があるのは正直なところ。姫新線利用促進・活性化同盟会としては、たつの市が事務局になって姫路市と佐用町、兵庫県にもご協力いただいて長年利用促進に努めてきたので、何か全体で考えられたらなと率直に思ったところだ。

利用促進については、先ほど発表した 90 周年記念事業に加えて、本竜野駅周辺を、中心市街地の活性化事業ということで、新たなホテル誘致やその周辺でのまちづくり、活性化の起爆剤的なところができないか等、重要伝統的建造物保存地区に呼び込むようなイベントを始め、市街地外のまちづくりも頑張っている。また播磨新宮駅についても、新宮中学校、新宮小学校とその他の小学校の小中一貫校の令和 10 年 4 月のオープンに向けて、ハード整備を進めているところである。姫新線利用促進・活性化同盟会だけに限らず、横断的に、商工会を初めとする関係各所全体で西播磨地域を盛り上げたいと思っている。

【大下委員（佐用町企画防災課 課長）】

杉本委員がおっしゃった通り、播磨新宮駅から西ということで切り取られてい

るが、平成2年発足の同盟会より、姫路から一本の線区という流れで取組をしているため、播磨新宮駅から切り取られることに疑問はある。

佐用町としても、90周年のイベントについてコバコ株式会社と連携を取らせていただいております、県立佐用高校のJRC部ともタイアップして、取組をしています。連携をとりながら、姫新線、地元の高校を維持していくため、佐用高校の方にも町から補助金を出して、様々な取組支援を行っている。佐用町は縮充のまちづくりということで、地域にいる皆さまが関心をもち、賛同していくことが大事ということで取組を行っている。

【丸山オブザーバー（岡山県美作県民局地域づくり推進課振興班 主任）】

岡山県も同じような立て付けでワーキングチーム設置している。

令和7年度のことで言うと、観光と日常利用のコースをまとめた冊子を作成した。〇〇町から△△病院への行き方とか想定されるコースをいくつか組んでいく。美作県民局で配架したところ、お持ち帰りいただけることも多かった。アンケートでは、今まで使ったことがないことが判明したため、このような方法で使える。というアプローチをできる内容になっている。同じく因美線でも実施したいと考えている。

今年度の兵庫県RTでは有識者から、横断的な発信・連携の不足（他府県連携も不足）していると指摘されているが、佐用町にチラシを置かせてほしいという話を県民局間で行っている。

本日は、備前県民局、美作県民局、西播磨県民局で県際交流ということで作成した、じゃらの列車の旅をお持ちしたので、ご了解いただければ配架していただきたい。今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、岡山県の県北部（美作県民局管内、備中県民局）で森の芸術祭が行われる。来場者の23.5%は実は関西圏の方。全体の16.5%がJRを使用している。利用促進というところで、兵庫県の沿線の方と集客や鉄道利用が出来ればと思っている。ただ、あくまで開催地の県民局として携わるという立場であるため、お話いただいてもすべてが叶うかは分からないが、森の芸術祭事務局とも毎日連携を取っている。何かアイデアがあればお教えいただきたい。

【石井委員（しんぐうNext 会長）】

JRから播磨新宮以西の利用者が減っていると報告があったが、JRとして乗車率を上げようとか、何か取り組んでおられることをお教えいただきたい。

【堤内委員（ＪＲ西日本兵庫支社 課長）】

その区間においては、ポスターの掲示に協力させていただいている。スタンプラリーとか、絵画コンテストとか出来るところを協力させていただきたい。

【石井委員（しんぐうＮｅｘｔ 会長）】

播磨新宮駅から西についてＪＲから何かすることはないのか。

【堤内委員（ＪＲ西日本兵庫支社 課長）】

今年の春のダイヤ改正で姫路から佐用までのダイヤを組み替えた。
ご利用に応じて工夫をしている。

【石井委員（しんぐうＮｅｘｔ 会長）】

地域活動をしている身として、事業実施にあたり、ＪＲの乗車率を上げるということを目指の一番上に持ってくると不自然なかたちになってしまう。

そのため、住民の方たちにとって駅とはどういったものなのか、駅の存在価値を考えてもらう、といった地域活動に変更した。その中で、たつの市と佐用町の間で協力出来たらいいとか、県境含めて、沿線で盛り上げる方法を考える必要があると思った。繋げるということは出来るだけやりたいと思ったので、売上を自分が伸ばすというよりは、そういう作り方をしてきた。

これからも繋げるということを引き続き取り組んでいきたい。

閉 会

【ＷＴ事務局】

皆様方におかれましては、本日の議論、またＲＴで出た意見や今後の取組方針等を参考に、さらなる利用促進に向けた取組を推進いただくようによりしくお願いしたい。

また今年度は、姫新線 90 周年ということで、ますます機運を盛り上げたいと思うので、ご協力をお願い申し上げます。